

第3回札幌市ウォークアブル ビジョン策定検討委員会

令和7年3月19日(水)15:00～
開始までしばらくお待ちください



本日の流れ

- 1 開会挨拶
- 2 事務局説明
 - ・「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」骨子案
 - ※冬のウォーカブル実証実験結果
- 3 意見交換
- 4 事務連絡・閉会

検討委員会スケジュール

令和6年度:市民ワークショップやシンポジウム、各種実証実験等を経て年度末に骨子案を提示(今回)

令和7年度:骨子案を素案にまとめ、庁内最終合意形成・議会報告・パブコメを経て年度末に策定・公表

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会			●第0回:「サッポロウォークアブルシンポジウム」		●第1回:(ビジョン構成案／実証実験計画案)				●第2回: (実証実験結果報告 ／ビジョン中間骨子案)			●第3回: (ビジョン 骨子案)

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会			●第4回: (ビジョン素案) ※オフライン開催を検討中		庁内最終合意形成・議会報告					パブコメ		●第5回: (最終案) ★ ビジョン 策定・公表

➡現在策定作業中の「次期都市計画マスタープラン」「次期都心まちづくり計画」における計画期間と整合性を図り、概ね20年後を見据えてビジョン策定作業を行う。またビジョン策定後はより具体的な推進計画の策定も検討。

「(仮称)札幌市ウォーカブルビジョン」の構成

第1章 ウォーカブル推進の目的

第2章 目指すまちの姿 ※「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」などケースごとに整理・可視化

第3章 実現に向けた有効な手法例、モデルケースの紹介

第4章 産学官民協働による推進体制、支援策の方向性

【ターゲット】 ※だれに:どのように活用してほしいか

- 地域団体及び企業(民):地域主体のウォーカブルなまちづくりの参考書として活用
官民が連携したまちづくりの実施における基本的な考え方として活用
- 札幌市役所内部(官):札幌市が目指すウォーカブルシティ像を明確化し、部局横断的な指針として活用
→具体的には“各地区のまちづくり”や“規制緩和”、“支援制度”の推進に寄与

－ 第1章 －

ウォーカブル推進の目的

【本章のポイント】

- ・札幌市における課題やこれまで得られた市民意見を整理
- ・多岐に渡る分野を包括し、5つの目的を重点指針として設定

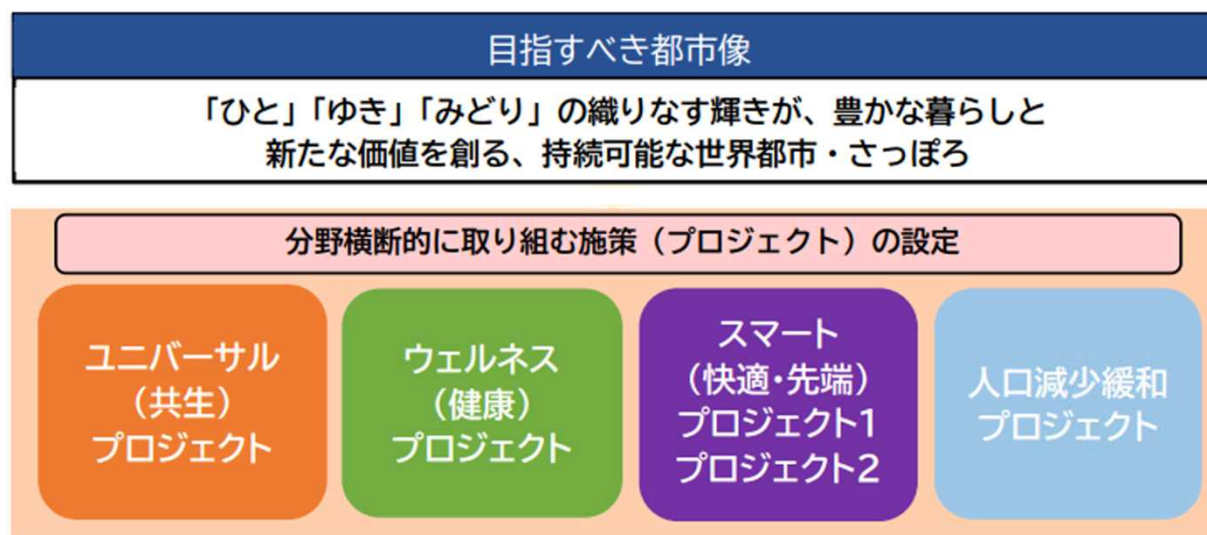
第1章:ウォーカブル推進の目的

上位計画との関係性

- ・令和4年度に札幌市の長期総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定
- ・重要施策の一つとして「ウォーカブルシティの推進」を掲げ、市長公約にも位置づけられている



札幌市の長期総合計画(令和4～13年度)



プロジェクト3本柱の1つに【ウォーカブルシティの推進】
「居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞在したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅市街地のそれぞれの特性を生かした空間の整備を進めます。」

第1章:ウォーカブル推進の目的

札幌市の抱える課題

- ・ウォーカブルシティ推進の背景となる課題は、都市によってそれぞれ異なる
- ・札幌市では特に「健康」「安全・安心」「交流・にぎわい」の観点から推進する必要性が高いと考えている

■市民の健康増進

- ・札幌市の健康寿命は、他の政令指定都市と比較して低位
※20政令市中17位
- ・積雪寒冷地であり、冬期間の外出が減少する傾向
※秋期と比較して冬期の外出率が約16%減少

⇒歩きたくなる、外出したくなるまちづくりにより、市民の健康増進を図る

■安全・安心な歩行環境

- ・道内の令和5年度交通事故による死者数の内、約40%が歩行者
- ・誰もが円滑に移動でき、快適に利用できる空間の必要性(ユニバーサル)
- ・「こどもまんなかまちづくり」など、こどものための生活空間を形成する機運の高まり

⇒歩きたくなるまちづくりにより、誰もが安全・安心に移動できる歩行環境をつくる

■交流・にぎわいの創出

- ・拠点における商業機能の空洞化
※商業店舗の住宅用途への転換など
- ・地域コミュニティの希薄化
※町内会加入率低下による担い手不足など
- ・観光戦略としての消費額の大きい海外客誘致の必要性
※第2次札幌市観光まちづくりプランより

⇒地域の特性に応じた歩きたくなるまちづくりにより、市民とともに交流・にぎわいを創出する

■考慮すべき社会情勢の変化

令和3年(2021年)以降は自然減が社会増を上回り、本市は人口減少局面に移行している。令和5年に前年比マイナス4,800人と人口減少のマイナス幅が拡大している。



令和2年、札幌市内から排出される温室効果ガスを2050年には実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言。

全道域でのGX産業の振興と
札幌市域での金融機能の強化
・集積を図り、日本の再生可能
エネルギーの供給基地、アジア
・世界の金融センターの実現を
目指す取組を推進。

※右図：2050年のあるべき姿のイメージ
(出典：札幌市気候変動対策行動計画)



■これまで得られた主な市民意見

- 地下鉄駅などの拠点部周辺に、誰でも気軽に使える休憩・交流スペースがあるといい
- 大通公園や豊平川など、緑地や水辺空間を活用することで、より自然との共生を感じられると思う
- 普段あまり活用されていない広場等でキッチンカーなどを常設で設置できるとコミュニティ形成につながる
- 自転車が行きやすい環境ができ、シェアサイクルのポートももっと増えてほしい
- 歩けない人も含めて、移動する全ての人にとって移動しやすいユニバーサルな街にしてほしい
- 冬や雪の良さを安心して味わうために屋内施設との連携を充実させてほしい
- 観光客にとっては自然の雪そのものが資源で歩きたくなる要素。ありのままの雪を触れられる場所も貴重

※市民意見は、令和6年度に実施した2回(夏・秋)の市民ワークショップ、6回(夏～冬)にわたる実証実験におけるアンケート、モデル地区宮の沢における市民参加型デジタルプラットフォーム等を活用し収集したものです

第1章:ウォーカブル推進の目的

ウォーカブル推進の目的(5つの重点指針)

持続可能なまちで、みどりとともに暮らせる

#まちづくりGX、#グリーンインフラ、#公園の利活用、#ゼロカーボンシティ



歩くことが楽しく、健康に暮らせる

#ウェルネス、#ウェルビーイング、#ウォーキング、#身体的・精神的・社会的健康



誰もが安心して、円滑に移動できる

#こども、#ユニバーサル、#事故対策、#公共交通、#自転車、#バリアフリー



居心地が良く、
自分らしくいられる居場所がある

#サードプレイス、#市民参加、#プレイスメイキング、#町内会、
#ダイバーシティ



札幌らしく、四季を通じて歩きたくなる

#冬のウォーカブル、#景観、#観光、#UIターン、#商店街



— 第2章 — 目指すまちの姿

【本章のポイント】

- ・ウォーカブル推進の目的を踏まえて、目指す都市像を明確化
- ・幅広いエリアに対応するため、「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」ほか、全12ケースを検討 ※全てのパースに季節、時間帯、平休日を設定

前回までの振り返り

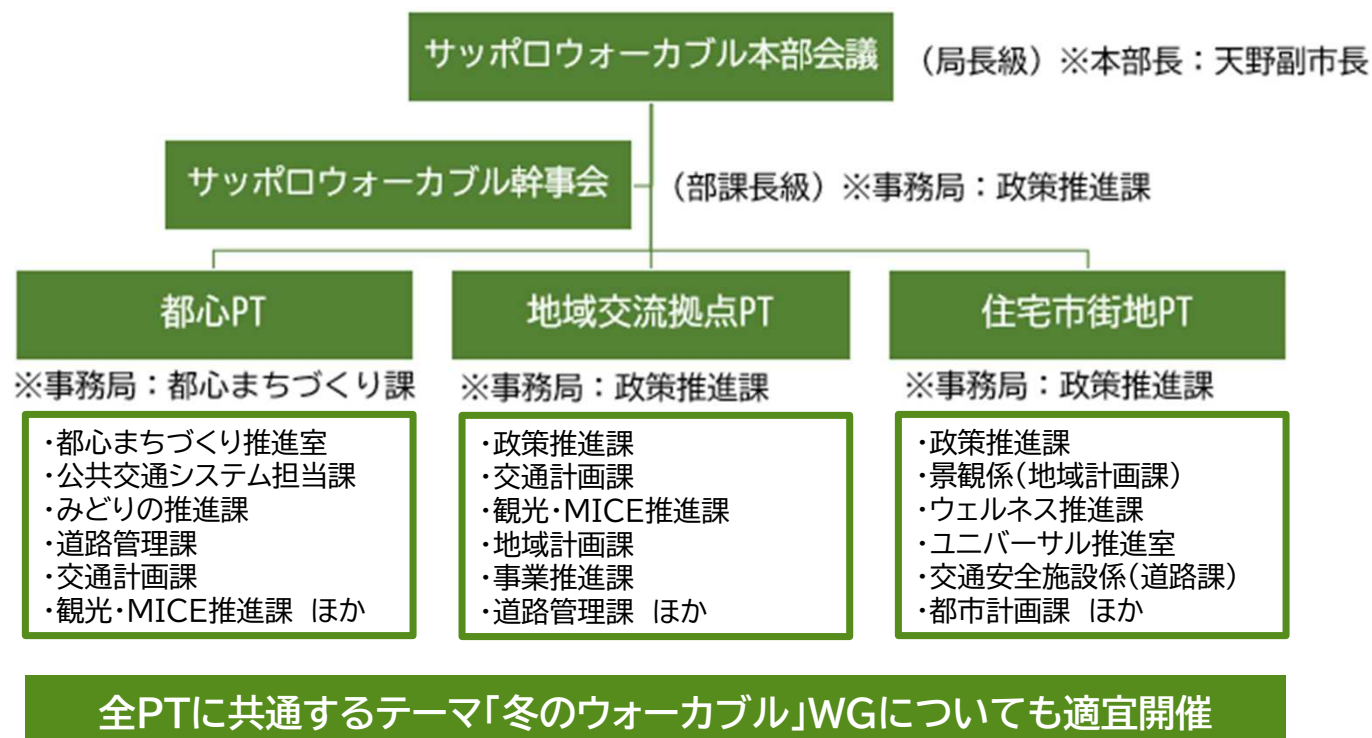
SAPPORO

庁内横断的な検討体制の構築状況

ウォーカブル推進本部会議後、各プロジェクトチームに分かれて庁内議論を実施



本部長(天野副市長)より、「これまでの慣例に縛られず、新たな制度の活用や、既存の事業の見直しなどを積極的に行うこと」と指示があった(令和6年6月18日第1回本部会議)



第2章:目指すまちの姿

札幌市全体コンセプト

Well-Moving City SAPPORO

春夏秋冬、地上も地下も、老若男女関係なく、ここに住む市民はもちろん、一時的な来訪者でも、いつでもどこでも誰もが心地よく、移動を愉しめる街、札幌。

読み:ウェルムービングシティ サッポロ

意味:『誰もが適切な移動手段を選択し楽しめる街』の様子を表現

解説:ウォーカブルビジョンのコンセプトにも含まれる『Well-being(ウェルビーイング)』を想起させるリズムと音を利用。

さらにそこから連動して安心・安全といったワードが言葉のイメージとして付帯する。

これは、ウォーカブル政策を推進する背景である「市民の健康増進」「安全・安心な歩行環境」「交流・にぎわい」の3本柱を網羅している。

Well-Moving City SAPPORO

春夏秋冬、地上も地下も、老若男女関係なく、ここに住む市民はもちろん、
一時的な来訪者でも、いつでもどこでも誰もが心地よく、移動を愉しめる街、札幌。

季節：春夏秋冬
時間：昼間(休日)

桜並木を眺めながら老夫婦が肩を並べながら歩いている(景観×バリアフリー)

歩道上の滞留空間で地域住民が井戸端会議をしている(道路空間の活用)

十分な走行スペースで自転車が安全に快適に走っている(通行空間整備)

快適なバス待合空間等によりストレスフリーな移動体験(公共交通の利便性向上)

道路等で様々なイベントが行われ、偶然の出会いに溢れている(バスキング制度)

居心地の良い緑陰のもとでオープンテラスを楽しんでいる(緑化×公共空間活用)

観光客が雪像の写真を撮ったり、自然の雪そのものに触れて遊んでいる(観光×雪)

雪×灯りが織りなす景観を、来街者が楽しみながら歩いている(景観誘導)

冬ならではのイベントに誘われ、市民も思わず街に繰り出している(空間活用×健康)

水辺空間や落ち葉などこどもたちが自然に触れながら遊んでいる(遊び場の確保)

キッチンカーやマルシェで季節の味覚や交流を楽しんでいる(公共空間の活用)

ひとりベンチに座り、紅葉と読書を楽しんでいる(多様な滞在空間の確保)

第2章: 目指すまちの姿

都市空間の種別

都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア

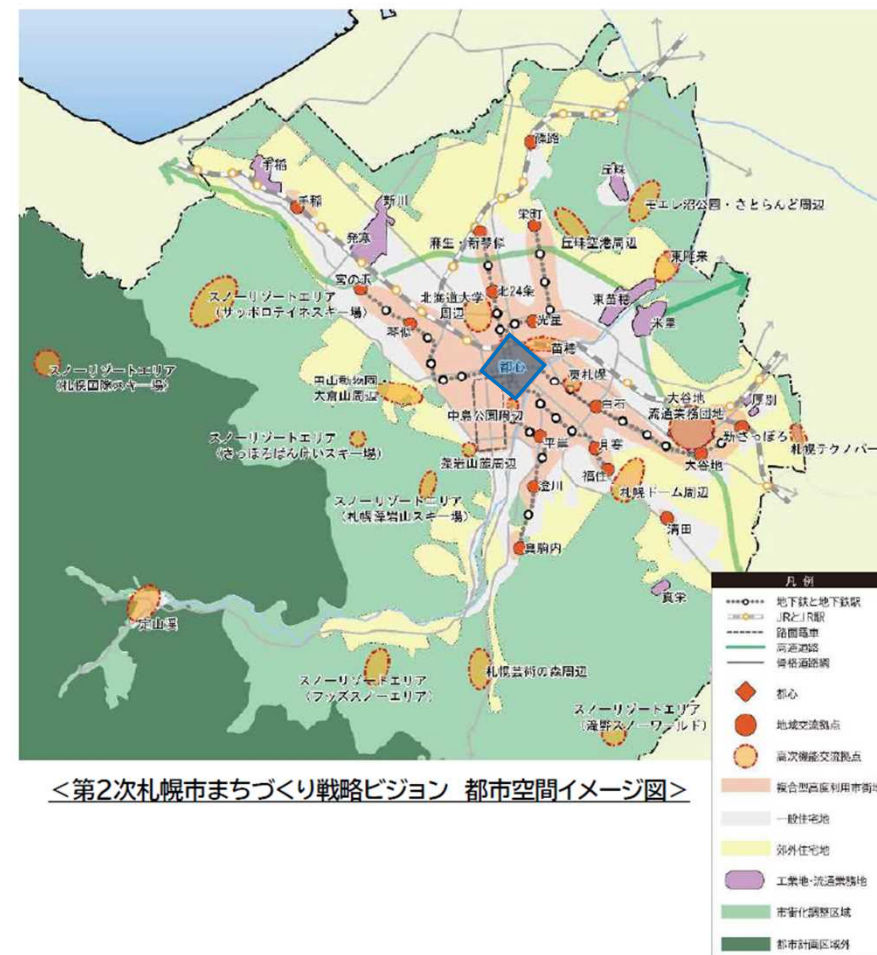
地域交流拠点

主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア

住宅市街地

多様なライフスタイルを支えるとともに、交通基盤の体系と対応した秩序ある土地利用を誘導する観点から、住宅市街地の区分※を定め、各区分に応じた居住環境の魅力向上や生活利便性の確保を図るエリア

※「複合型高度利用市街地」「一般住宅地」「郊外住宅地」



巡るたび、また巡りたくなる。 好奇心の積もる街並み。

季節：初夏
時間：昼間(休日)

この街は、いつ訪ねても、何度訪ねても面白い。気持ちの良い風を感じて歩いても、ぬくもりを求めて深く潜っても、そこに必ず、思いがけない出会いがある。

ストリートと一体となった沿道空間では、オープンカフェや広場活用など、新たな出会いの場にもなっている

交通環境が整備され、荷捌きや人々の乗降など、都市活動が円滑に行われ、誰もがストレスなく過ごしている

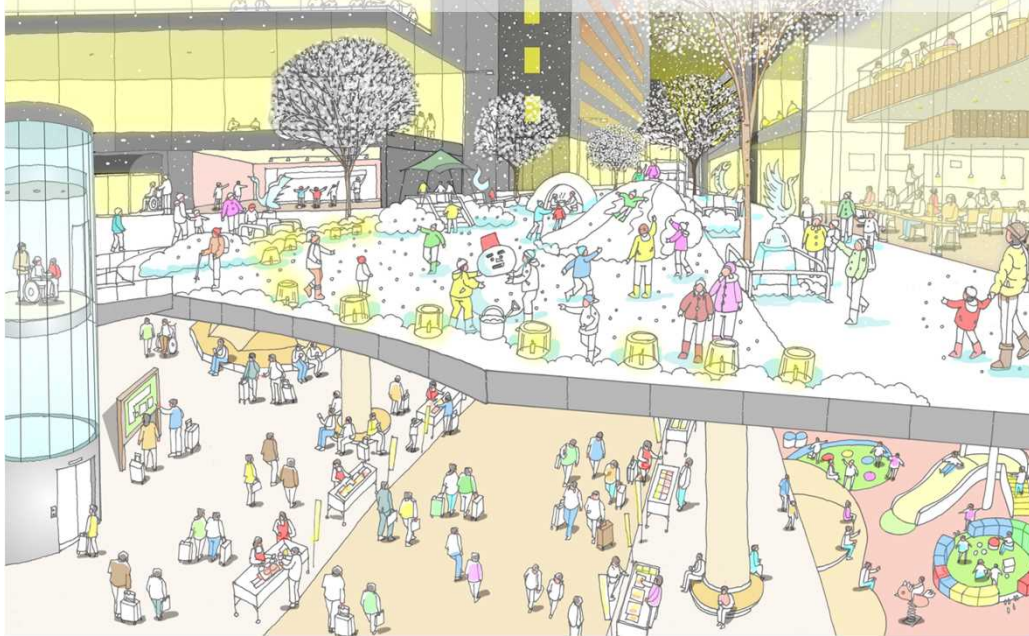
沿道施設における低層部の賑わいが、歩いて楽しい街路空間の一部となっている

都心を訪れる買い物客、学生、高齢者、ビジネスパーソン、家族連れ、観光客、障がいのある方など、誰もがそれぞれの好奇心を持ち回遊したくなるような魅力的なストリートが形成されている

休憩施設が充実しており、誰でも気軽に休み、交流することができる

【都心】目指すシーン(風景)

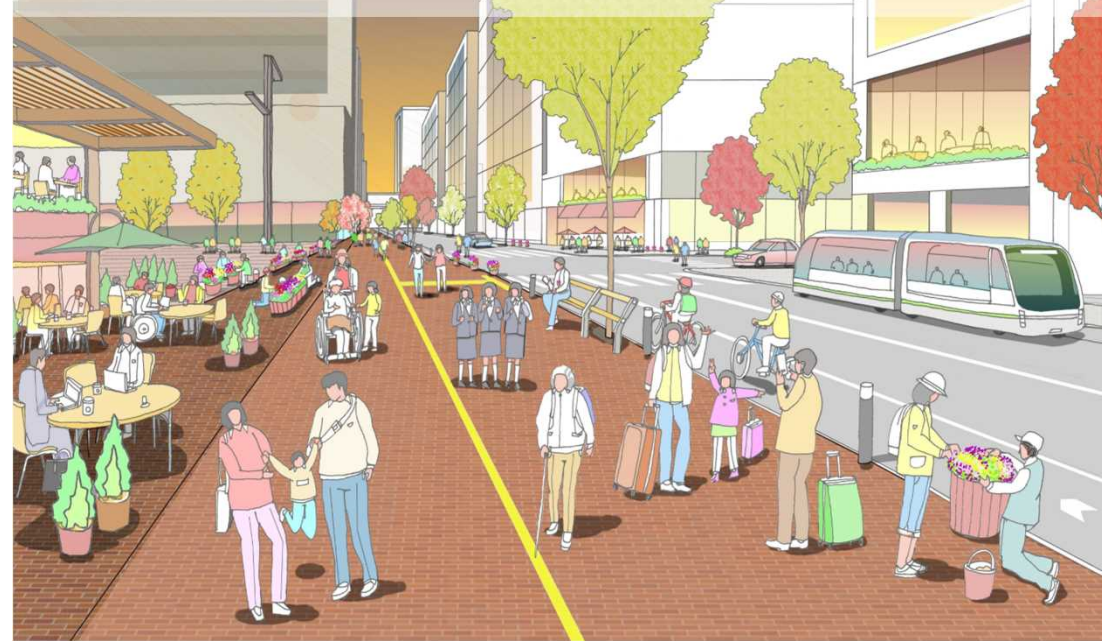
<地上と地下を最大限に活用して季節を楽しんでいる風景>



この街の冬にはいろんな色がある。
青空の下、ピリッと冷えた空気を吸い込み、季節を感じて歩くと、
常緑の温もり溢れる空間で、無為な時間を過ごすとき、どんなときでも、
老若男女、人それぞれに、思い思いに、どこかに居場所を見つけられる。
四季を通じて楽しめる街並み。

季節：冬
時間：夜間(休日)

<魅力的な沿道・歩道空間で誰もが日常を楽しんでいる風景>



道と街の境界線を、緑とゆとりが緩やかに繋ぐ。
道行く人も、働く人も、くつろぐ人も、もてなす人も、みんながそこで自然に
交わり、積み重なった賑わいが、心地の良い喧噪を生む。
視線を向けた光景すべてが、切り取りたくなる、ユニークで楽しい街並み。

季節：秋
時間：夕暮れ(平日)

第2章: 目指すまちの姿

都市空間の種別

都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア

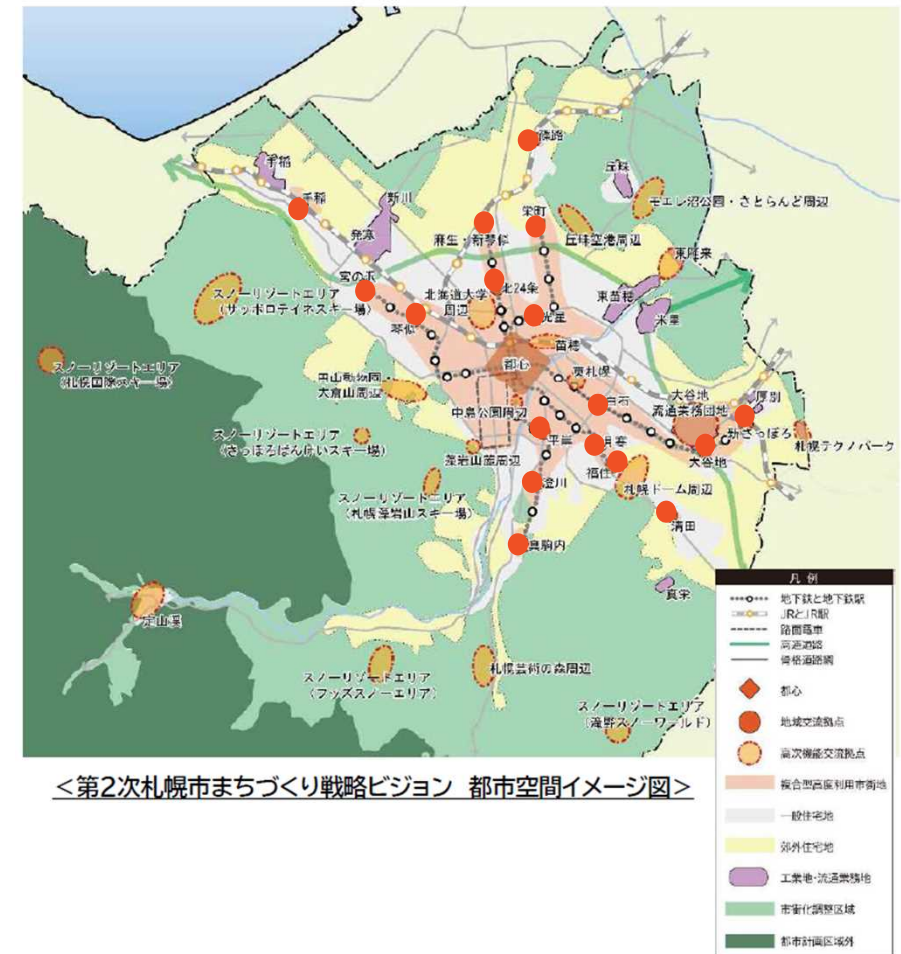
地域交流拠点

主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア

住宅市街地

多様なライフスタイルを支えるとともに、交通基盤の体系と対応した秩序ある土地利用を誘導する観点から、住宅市街地の区分※を定め、各区分に応じた居住環境の魅力向上や生活利便性の確保を図るエリア

※「複合型高度利用市街地」「一般住宅地」「郊外住宅地」



行きも帰りも寄り道せずにいられない。 賑わい、出会いのターミナル。

季節：夏
時間：昼間(休日)

近頃移動がスムーズで、行きも帰りも余裕が出来た。空いた時間で寄り道しよう。
今日はどんな魅力溢れるヒト・モノ・コトに出会えるだろうと、笑みがこぼれた。

いつもの駅前広場で、いつも何かやっている。偶然の出会いと人々の笑顔が生まれる仕掛け(テラス、広場活用)

プレイス機能に特化したストリートでは、滞留できるベンチや植栽、アートなど、居心地がよく楽しめる施設が整備されている

誰もが移動しやすいターミナルとして、バリアフリー化や最適な動線が組まれている

エリアマネジメント団体等による、地域に密着したイベントが行われている

【地域交流拠点】目指すシーン(風景)

＜自然と歩みが遅くなり、思わず寄り道をしてしまう風景＞



この街を訪れたなら、寄り道せずにいられない。
道路まで溢れ出す街の魅力に、自然と歩みが遅くなる。
食事に買い物、面白そうなイベントも、少し歩けば緑を楽しむことさえ出来る。
今日はどこに寄り道しよう。日々の移動に彩りを加える、地域の交流拠点。

季節：夏
時間：夜間(平日)

＜快適に移動ができ、待ち時間さえも楽しんでいる風景＞



毎日の通勤、通学、買い物も、出張、観光、初めてとなる訪問も、あらゆる流れが整えられて、快適に移動ができる過ごしやすい街。

乗り換えで空いた時間や、待ち時間さえ楽しめる、様々な街の仕掛けが、市全体の魅力をつなげ、高めるための要となる。

季節：夏
時間：夕方(平日)

第2章: 目指すまちの姿

都市空間の種別

都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア

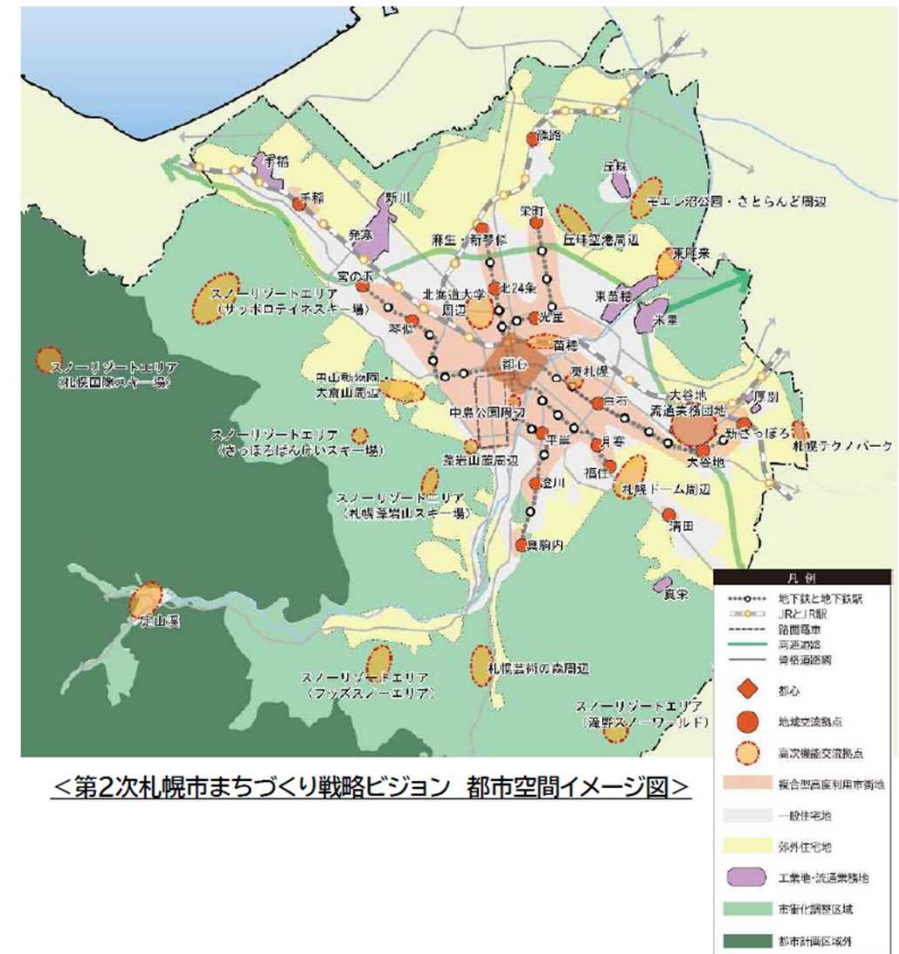
地域交流拠点

主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア

住宅市街地

多様なライフスタイルを支えるとともに、交通基盤の体系と対応した秩序ある土地利用を誘導する観点から、住宅市街地の区分※を定め、各区分に応じた居住環境の魅力向上や生活利便性の確保を図るエリア

※「複合型高度利用市街地」「一般住宅地」「郊外住宅地」



自分らしく、気兼ねなく、出かけ愉しむ。 自然が彩る心地よい暮らし。

季節：秋
時間：昼間(休日)

朝、カーテンを開けると、遠くに見える山の緑が萌えていた。だから、今日はいつもの道を、徒歩で来たんだ。すれ違うこどもたちの笑い声が少しだけ大きく聞こえた。

モビリティハブがあり、気軽に交通にアクセスできるような環境が整っている

札幌の魅力である自然に気軽に触れながら、心地よく歩ける散歩道がある

地域の歴史・景観資源を活かした歩きたくなる空間が形成されている

誰もが安全に、自分らしく居られると感じる場所がある(身近な公園)

【住宅市街地】目指すシーン(風景)

＜誰もが思い思いに過ごしている身近な公園の風景＞



誰もが自由に利用できる公園は、誰もが思い思いに過ごせる場所。
子どもたちの遊ぶ声。キッチンカーでランチ。
健康作りの運動も。ひとりでも、みんなでも。
絶え間なく賑わう広場を見渡せば、誰もが充実した表情だ。

季節：春
時間：昼間(平日)

＜こどもも親も安心して楽しく歩ける通学路の風景＞



こどもたちが毎日歩く通学路。
安心、安全はもとより、学校に行くため、出かけることそれ自体が、
楽しみとなる様々な仕掛け。

それは、子どもたちだけでなく、この街に住む誰もが、安心、安全に、
気兼ねなく出かけたくなる街の雰囲気を作っている。

季節：夏
時間：朝方(平日)

冬のサッポロウォーカブル実証実験

企画名:「偕楽園 雪灯りと夜さんぽ」、実施団体:「鉄西第7町内会」 協力:「北開道地所株式会社」

※明治4年、開拓史により日本で初めて計画的に造成された緑地

- ・偕楽園緑地※は、冬季間に活用されておらず、特に夜は薄暗く近寄り難いエリアであった
- ・町内会を中心にスノーキャンドル等の仕掛けを行った結果、3時間で約200名もの来場者が訪れた



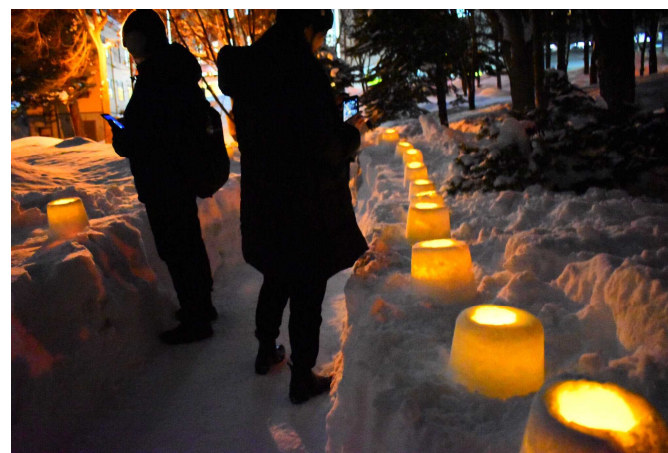
■Before



【平時の状況】

- ・平時同時刻の調査では通行人が6名
- ・平均滞在時間は約4分程度
- ・辺りは薄暗く、近寄り難い印象

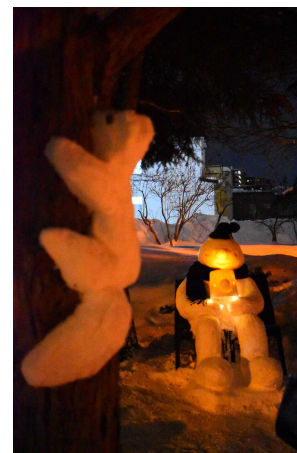
■After



【実施概要】

- ・地域の協力により除雪し散策路が整備
- ・キッチンカーでは温かい珈琲を提供
- ・スノーアートにより回遊したくなるエリアに
- ・スノーキャンドル※の優しい灯りに包まれた

※本市の調査によると、札幌市内では年間約3万個のスノーキャンドルが設置されていることが判明



【実施効果】

- ・16～19時の3時間で約200名の来場
- ・平均滞在時間は約20分に増加
- ・久々に会う地域住民など、交流促進効果

冬のサッポロウォーカブル実証実験

企画名:「新さっぽろワクワク冬の実験フェスタ」、実施団体:「新さっぽろエリアマネジメント」ほか

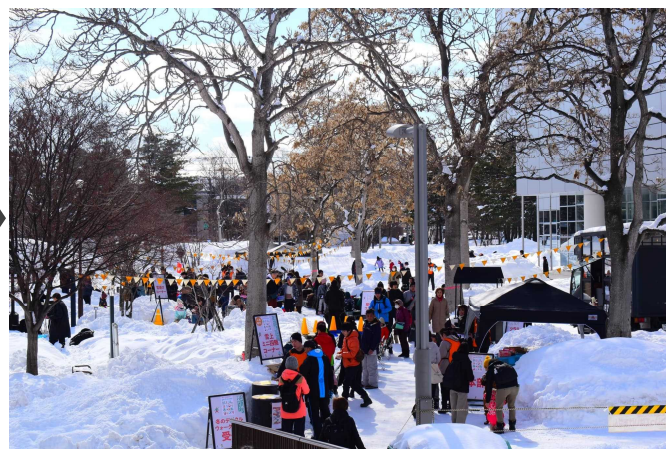
- ・新さっぽろ駅周辺にある科学館公園は、冬季間に活用されておらず、立地の優位性を活かせていなかった
- ・官民連携事業を活用し、様々な企画を実施した結果、6時間半で4,103名もの来場者が訪れた



■Before



■After



【平時の状況】

- ・除雪はされており通行はできるものの滞在者はほぼ居ない状況
- ・周辺の施設内に賑わいが留まっていた

【実施概要】

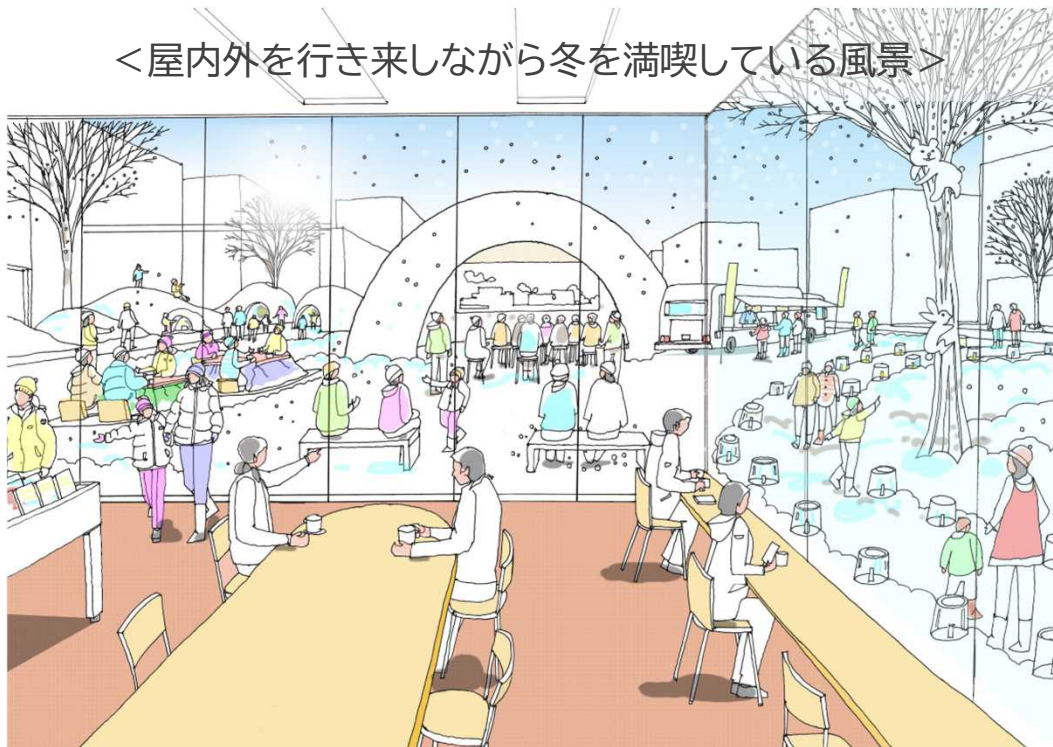
- ・エリアマネジメント団体や学生など多様な主体が連携し、雪上コタツ、ミニ映画館、雪遊びコーナー、雪上ミニ四駆、DJ体験、キッチンカー、ウォークラリーなどを実施

【実施効果】

- ・10～16時半の6時間半で4,103名の来場
- ・コタツに滞留する人々も457名を記録
- ・周辺の施設と行き来する人も多くみられエリア全体としての回遊性が向上した

【冬のウォーカブル】目指すシーン(風景)

＜屋内外を行き来しながら冬を満喫している風景＞



冬はどうしても、屋内に籠もりがちになるもの。
 それならば、籠もれる場所にバリエーションを。
 冬の街から、温もりのある屋内へ。
 食事や買い物、イベントを一通り楽しんで、暖まったらまた外へ。
 雪を楽しみ、限界が来たら、次の場所。
 そうして自然と、冬を楽しむ人たちが集まっていく。

季節：冬
 時間：昼(休日)

【観光地のウォーカブル】目指すシーン(風景)

＜大自然と非日常を味わい、思わず散歩をしたくなる風景＞



都心部からひと足伸ばせば、普段とは全く違う景色の中に飛び込み、全身で自然を体感することができる。

寒くなったら室内であたたまり、また外に繰り出す。
 どちらも楽しめるこの街は、季節を味わうにうってつけの、特別な街だ。

季節：秋
 時間：昼(休日)

— 第3章 — 有効な手法例、モデルケースの紹介

【本章のポイント】

- ・ウォーカブル推進の目的(5つの重点方針)ごとに代表的な手法等を紹介
 - ・現時点で活用実績のある手法等を地域住民、企業、行政の主体別に整理
- ※第2章「目指すまちの姿」を実現するための複合的な行政戦略は、
今後策定を検討している推進計画にて対応を予定

第1章:ウォーカブル推進の目的

ウォーカブル推進の目的(5つの重点指針)

持続可能なまちで、みどりとともに暮らせる

#まちづくりGX、#グリーンインフラ、#公園の利活用、#ゼロカーボンシティ



歩くことが楽しく、健康に暮らせる

#ウェルネス、#ウェルビーイング、#ウォーキング、#身体的・精神的・社会的健康



誰もが安心して、円滑に移動できる

#こども、#ユニバーサル、#事故対策、#公共交通、#自転車、#バリアフリー



居心地が良く、
自分らしくいられる居場所がある

#サードプレイス、#市民参加、#プレイスメイキング、#町内会、
#ダイバーシティ



札幌らしく、四季を通じて歩きたくなる

#冬のウォーカブル、#景観、#観光、#UIターン、#商店街



第3章:有効な手法例、モデルケースの紹介

持続可能なまちで、みどりとともに暮らせる(ウォーカブル推進の目的)

実施主体	代表的な手法名	手法イメージ	概要	効果	有効なエリア		
					都心	拠点	住宅
地域住民	町内会やボランティア団体による美化活動		公園や広場、街路空間などにおいて、町内会やボランティア団体などによる植栽管理を行うことにより、まちに緑を増やしていくもの	令和4年11月に完成したポケットパーク「苗穂さんかく広場」では、地域にゆかりのある亜麻やホップの管理を行い、 <u>特色のある緑地空間を創出し、地域の交流促進にも貢献</u>	○	◎	◎
企業・団体	民有地・建物の緑化		民間事業者により敷地内の緑化を行い、公共空間以外でも良好な景観形成や環境面など多様な効果を目指すもの	令和6年10月に実施した緑化施設利用者へのアンケートで、「緑化による企業のイメージアップ」は約67%、「 <u>緑化空間に再度来たい</u> 」は約77%が、「 <u>そう思う</u> 」と回答があり、価値向上に寄与	◎	◎	○
行政	下水熱を活用したロードヒーティング		再生可能エネルギーのひとつである下水熱を活用して融雪するもの ※「ZEB Ready」等の環境認証の取得にも貢献	令和7年2月にリニューアルオープンした中央区複合庁舎において採用することにより、 <u>冬期の安全な歩行環境を実現</u>	○	○	○

第3章:有効な手法例、モデルケースの紹介

歩くことが楽しく、健康に暮らせる(ウォーカブル推進の目的)

実施主体	代表的な手法名	手法イメージ	概要	効果	有効なエリア		
					都心	拠点	住宅
地域住民	公共空間における健康活動		地域住民が集まり、公園や広場等の公共空間においてフィットネスを企画したり、参加したりするもの	令和6年9月に実施されたNoMapsWELLNESSでは、北3条広場においてフィットネス企画に100人以上が参加し、 <u>身体的健康だけでなく、心理的・社会的健康の向上に寄与</u>	○	○	◎
企業・団体	商業・業務施設整備における、公共空間整備		商業施設や業務施設を建設する際に、1階部分にガラス張りの店舗を入れたり、歩道沿いに広場を設け緑化や休憩施設を設置するもの	令和3年8月に竣工したオフィスビルでは、1階店舗と連携した広場を設けることにより、 <u>快適な歩行空間の確保や、地域住民、周辺のオフィスワーカーの憩いの場を創出</u>	◎	◎	○
行政	ウォーキングマップの作成・コースの整備		市内様々なエリアでのウォーキングマップの作成・更新のほか、必要に応じて新たなコース整備を行うもの	令和6年9月に実施した「マコエキフェス」では自然に触れながら歩くイベントを実施し、 <u>参加者の歩行量が平時と比較し約3倍に増加</u>	○	◎	◎

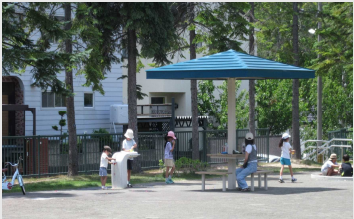
第3章:有効な手法例、モデルケースの紹介

誰もが安心して、円滑に移動できる(ウォーカブル推進の目的)

実施主体	代表的な手法名	手法イメージ	概要	効果	有効なエリア		
					都心	拠点	住宅
地域住民	地域住民による冬季の砂まき活動	 砂箱の利用方法 つるつる路面对策	地域住民自らが生活圏域において歩道の砂まき活動を行うことで、冬季の転倒危険防止を図るもの	(令和5年度に雪道で自ら転送して救急搬送された人数は過去最多の1887人) 地域住民の協力も得ることで、 <u>冬季の安全な歩行環境に寄与</u>	○	◎	◎
企業・団体	シェアサイクル		まちなかにシェアサイクルポートを複数箇所設置し、誰でも気軽に利用できる自転車移動環境を整備するもの	ポロクルの令和6年実績ではポート数59箇所、自転車台数約600台、年間約51万回の利用実績。 <u>円滑な移動だけでなく、環境負荷を低減し、健康増進効果も見込まれる</u>	◎	○	△
行政	地下鉄駅バリアフリー経路の複数化(EV新設)		地下鉄駅において、エレベーター増設により、バリアフリールートの充実を図るもの	令和7年3月時点の増設実績は、琴似駅(平成30年)・大通駅(令和元年)の2箇所。現在、新さっぽろ駅と大谷地駅で工事中であり、 <u>誰もが安心して移動できる環境整備に寄与</u>	◎	◎	△

第3章:有効な手法例、モデルケースの紹介

居心地が良く、自分らしくいられる居場所がある(ウォーカブル推進の目的)

実施主体	代表的な手法名	手法イメージ	概要	効果	有効なエリア		
					都心	拠点	住宅
地域住民	公共的空間を活用した地域のお祭りイベント		地域住民による公共的空間を活用したお祭りイベント等を継続的に実施し、低未利用エリアにおける交流・にぎわいを図るもの	令和6年8月の実証実験「平岸夏祭り」では、 <u>平時と比較して滞在時間が23倍(2・3分→51.9分)に増加し、地域の交流促進効果が確認</u>	○	◎	◎
企業・団体	公共的空間におけるオープンスペースの設置		民間開発等を契機に、多様な使い方ができるオープンスペース(広場やテーブル、ベンチ、植栽など)を充実させるもの	令和6年9月に行った道庁南エリア研究会による地下歩行空間での社会実験において、質の高い滞留空間を設置することで、 <u>通常時と比べて滞在者数が1.6倍に増加し、居心地の良い空間創出に貢献</u>	◎	○	△
行政	地域に身近な公園の再整備		地域に身近な公園にそれぞれ役割を持たせて機能を分担(地域の核、機能特化、その他)し、毎年30箇所程度の再整備を実施するもの	令和6年度のアンケート調査では公園周辺の住民の約7割が「公園の印象が良くなった」と回答があり、 <u>自分らしくいられる居場所づくりに貢献</u>	△	○	◎

第3章:有効な手法例、モデルケースの紹介

札幌らしく、四季を通じて歩きたくなる(ウォーカブル推進の目的)

実施主体	代表的な手法名	手法イメージ	概要	効果	有効なエリア		
					都心	拠点	住宅
地域住民	地域主催のプレイスメイキング ※スノーキャンドル等		地域住民自らの手によりスノーキャンドル等を制作し、いつもの空間(スペース)を歩いて楽しい居場所(プレイス)に変化させるもの	令和7年2月に実施した「偕楽園 雪灯りと夜さんぽ」では、夜間かつ冬期間にも関わらず、 200名以上の来場者を記録し、エリアの回遊性向上や外出促進に寄与	○	◎	◎
企業・団体	河川空間を活用したイベントの開催		札幌の短い夏を自然と共に楽しみ、河川に安全に触れる機会を提供。また飲食スペースやこどもの遊び場を設置し多世代が楽しめる場所にするもの	令和6年8月に豊平川河川敷で15日間にわたって開催された「川見」では、期間中に 31,835人の来場があり、多世代が自然に触れ、同行者との交流促進に貢献	◎	◎	○
行政	自然×雪を味わう足湯の整備		足湯施設で温まりながら雪見を楽しむことができ、さらには周辺の観光施設との連携により、周遊を促すもの	令和6年12月20日に定山溪地区に新たな足湯施設「二見の湯」が完成。これまでに約 5,000人が訪れ、周辺エリアを含めた回遊性の向上に寄与	△	○	○

— 第4章 —

産学官民協働による推進体制、支援策の方向性

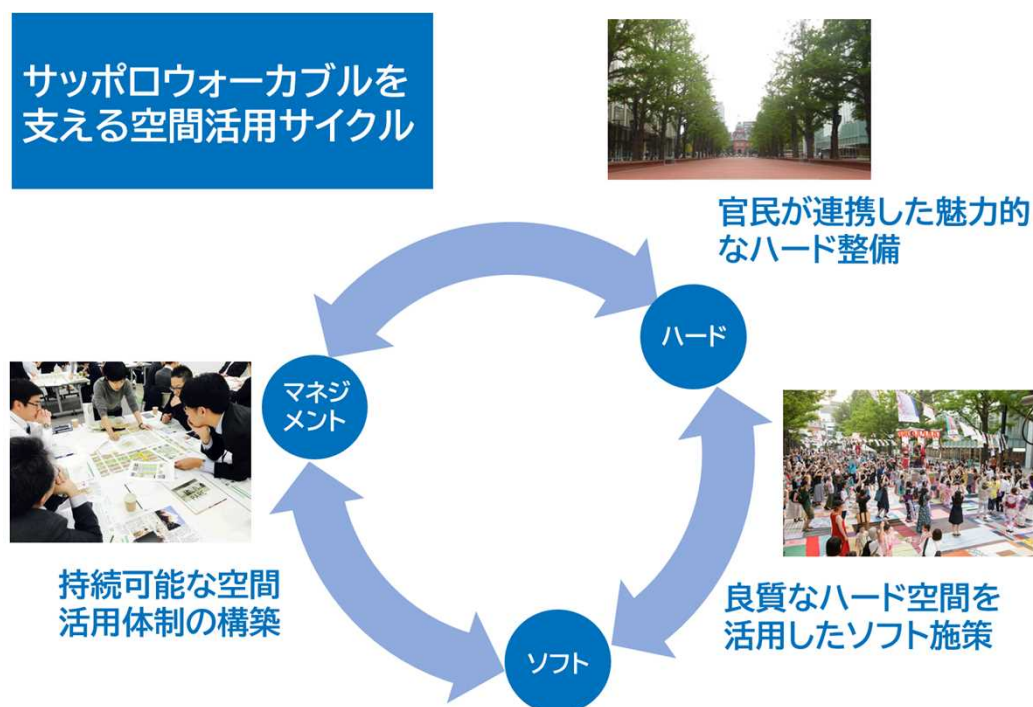
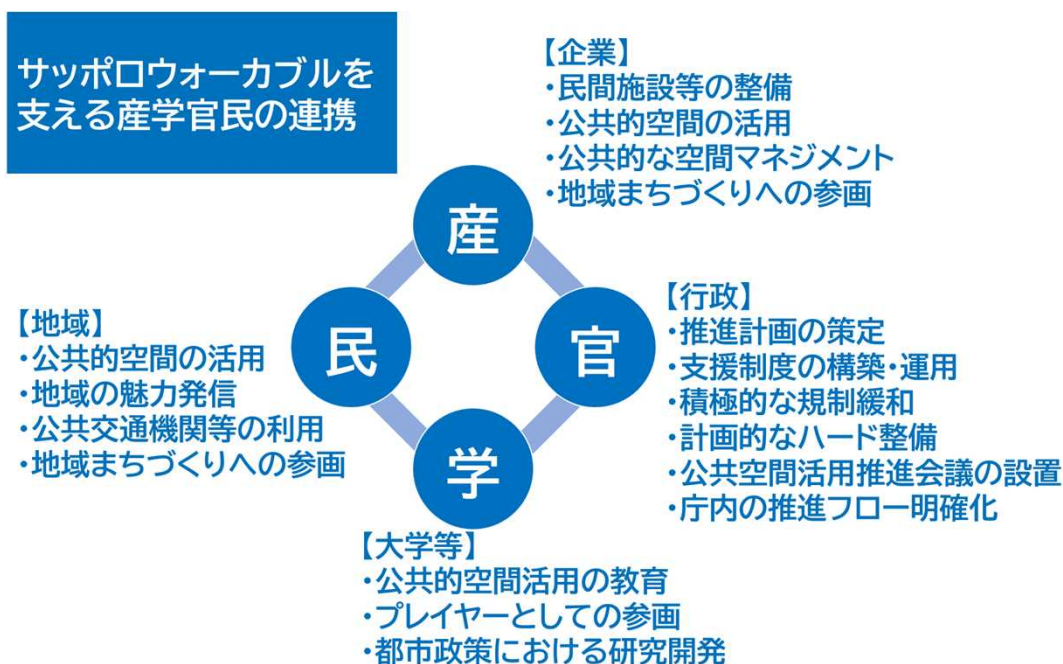
【本章のポイント】

- ・第2章「目指すまちの姿」の実現に向けて、産学官民の協働体制を明確化
- ・支援策は令和6年度に実施した様々な実証実験主体から寄せられた要望を中心に、庁内横断的な対応について検討を進めている

第4章:推進体制、支援策の方向性

産学官民による推進体制

推進体制（イメージ）



※本日ご議論いただく第2章「目指すまちの姿」の方針に合わせて、今後庁内外の関係者と検討を進める予定

第4章:推進体制、支援策の方向性

支援策の紹介

支援内容（イメージ）

【整備／活用】

（施策例）

- ・緩和型土地利用計画制度
- ・歩行者利便増進道路制度の活用
- ・景観まちづくり助成金
- ・回遊・滞留機能向上に資する取組への助成金 など

※本日ご議論いただく第2章「目指すまちの姿」の方針に合わせて、今後庁内外の関係者と検討を進める予定

【手続き／許認可】

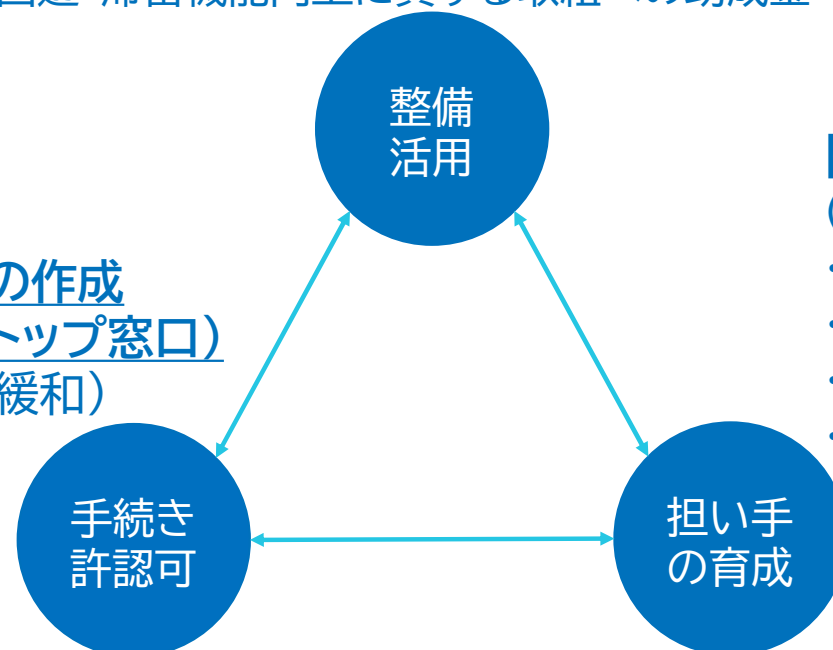
（施策例）

- ・公共的空間活用ガイドラインの作成
- ・申請手続きの簡素化(ワンストップ窓口)
- ・空間活用要件の明確化(規制緩和)
- ・バスキング制度の創設 など

【担い手の育成】

（施策例）

- ・地域まちづくり講座の開催
- ・アドバイザー派遣
- ・エリアマネジメント団体への支援
- ・公共的空間活用人材の育成 など





第3回札幌市ウォーカブル ビジョン策定検討委員会

ご視聴いただきありがとうございました。

